

---

## 編集後記

---

2011年3月11日（金）、東日本を襲った地震、津波そして原発事故は未曾有の深刻な被害をもたらした。その被害は被災地に留まらず直接的または間接的に広く全国に及んだ。地震、津波そして放射性物質の被害が及んだ地域はむろんのことだが、これらが距離の関係で及ばなかった地域といえどもまったく無関係ではありえなかった。野菜・果物・魚類などの食べ物、薬剤、いろいろな生活用品やその部品など、多くのものを全国の各地が東北地方に依存していたことを改めて知った。

日本中が互いに深く関わり合っていることを改めて想起し、この大きな災害に日本国民が総出で立ち向かわなければならないと実感したのだった。一方、放射能が全世界的に拡散することや、多種多様で大量の震災ガレキは1年後には海流に乗ってハワイに到着することが懸念されており、故意に為したことはないにせよ、わが国は全世界に大きな責任を負うことになる。ここでも、一国で事が済まなくなってしまう事態が発生し、世界（人類）は良くも悪くも一つだと、別の意味の“グローバル化”を強く感じる。被災県で治療の場を失った多数の透析患者達が曰く言い難い苦勞の末に何とか他施設で治療を受けられるに至った経緯を、私は透析医会の災害情報ネット上でやり取りされたりアルタイムのメールから胸を痛めながら知った。透析スタッフはむろんのこと多くの人々の昼夜をおかない献身的な努力が、大きな齟齬なく事態を收拾せしめたのであろう。

むろん、明日に備えての反省は幾多もあろうが、いずれ関係各位によって総括されることを期待したい。この度の東日本大震災は復旧・復興に長い期間を要するものと予測され、わが国国民の一人一人に知力、体力、指導力、協調力、持久力などが問われる事態であると認識したい。

さて、本号にも、日常臨床に深く関わる多くの優れた論著が掲載された。ご高覧の上、会員諸氏の読後感を **Letter to Editor** としてお送りいただければ、幸いである。

広報委員 大平整爾